かがやき

かんがえる
がんばる
やさしく
きたえる

時津町立鳴鼓小学校
学校だより　　第３号

令和４年６月１日
文責：校長　今井大輔

輝いた運動会

五月二十二日（日）に最高の五月晴れの下、第四十一回運動会が行われました。感染防止のために各家庭二名までという人数制限でしたが、参観者がいるとやはり雰囲気は盛り上がります。五百人を超える参観者を前にして、子供たちの目の色は、全然違っているように思えました。

「三年ぶりに見られた」「初めて来ました」という保護者の声も聞かれ、以前は当たり前だったことが、コロナ禍においては「ありがたいこと」「嬉しいこと」と思えるようになったことを改めて実感させられました。

また、参観エリアを制限し、競技の度に入れ代わりをお願いしていたのですが、ＰＴＡ本部役員さんのご協力とみなさんのご理解でスムーズに運営できたことにお礼申し上げます。保護者のみなさんのマナーの良さで、誰もが気持ちよく観戦することができたことをうれしく思っています。本当にありがとうございました。

鳴鼓小伝統のソーラン節

各色団長の運動会後の感想

白組団長　山下ゆず菜

最後の運動会は、とても楽しかったです。特に応援が印象に残っています。早くから練習を始めて、昼休みのほとんどを応援の時間にかけてきました。初めての応援団長だったので不安なこともあったけど、団長として白組をまとめることができてよかったです。団長にはやることがとても多くて、大変だと思うこともありました。しかし、一緒に練習している応援団の仲間の元気さと明るさを見ていると、嬉しくなりました。そして、この元気さと明るさを生かしてもっと応援を盛り上げたいと思いました。そんなことを考えながら応援をつくるといい内容が浮かんできました。本番は大成功して本当に良かったです。（後半略）

赤組団長　木村鷹蓮

ぼくは、運動会で心に残ったことが二つあります。一つ目は、応援合戦です。理由は、応援の時に言うセリフを決めることに時間がかかり、あまり練習ができず、そのまま本番がきてしまったからです。しかしそこで、自分が五年生の時の団長の「本番しっかり気合を入れていこうね」という言葉を思い出したのです。そのおかげで自信をもって応援合戦に取り組むことができました。また、その同じ言葉を今の五年生にも言ってあげたら、みんなしっかりと自信をもって応援合戦に取り組めていたので、そのことがとても心に残りました。（後半略）

プールそうじ

三年ぶりの水泳学習に向けてプールそうじを行いました。五・六年生がていねいに磨き上げていく様子は、学校のリーダーとして頼もしい姿でした。

今回は、地域の方（左底の出原さん、元村の村本さん）にもお手伝いしていただきました。お二人は、自前の高圧洗浄機で壁面やフロアカバーなどをきれいにしてくださいました。子供たちや職員にとって頼もしい助っ人でした。きれいになったプールで子供たちが命を守る学習をしていくことを楽しみにしています。

つぶやき

「もっと腰を落とさんば～！」そんな言葉をかけながら、十数年前に我が家のリビングでソーラン節を練習している娘を見ていたのを覚えている。今回の運動会で５・６年生が披露した鳴鼓小伝統の「ソーラン節」は二十年以上続いている。私の子供も鳴鼓小卒なので、このソーラン節を踊り継いできた。始まった当時は、紺の法被の部分だけだった。第十代校長の呼びかけでのぼりが集められ、保護者の協力を得て、法被の下に縫い付けられ、今の形となった。

アップテンポのソーラン節は、テレビドラマで脚光を浴び、一躍全国へ広がった。鳴鼓小の伝統もその頃から始まった。

実は、長崎商業高校では、その数年前からアップテンポのソーラン節踊りを取り入れていた。私は、たまたまその迫力ある踊りを目の当たりにして「これだ！」と思い、当時勤務していた出津小の子を数名引き連れて、長商の先生の所まで直接習いに行った。そして運動会で披露したのであった。

その次年度、鳴鼓小のグラウンドから同じ曲が聞こえてきた時には、感動で鳥肌が立ったのをはっきりと覚えている。

当時、出津小でソーラン節を一緒に踊った子は、現在鳴鼓小の保護者の一人でもある。おそらく参観されたみなさんの中に、先に話した長商やこの鳴鼓小で踊った方もいるのかもしれない。そんな伝統の始まりと継承、そして人の繋がりに思いをはせながら、５・６年生の踊りを観させてもらった。一言に「伝統」というが、その重さと込められた思いを受け継いでいくことは大切なことだと思う。